



令和4年度

第10回 吹田市地域公共交通会議

千里山地区等乗合交通試験運行の実績報告

(令和4年2月の運行開始～9月末)

吹田市

1.試験運行バス利用者の状況について

1



●調査概要

実施時期	試験運行バスの運行期間(令和4年2月～令和6年2月) ⇒令和4年2月17日に、たけのこルート(千里山地区)試験運行開始
調査対象	期間中全便
調査手法	試験運行バス・ドライバーによる各停留所の乗降者人数の記録
調査内容	毎日毎便の各停留所における乗降者人数の整理等



写真. 運行開始日の様子



写真. 沿線道路の様子(4月)

今回は、令和4年2月の運行開始～9月末までの利用状況についてを報告

①月別利用状況について



- 9月末までの乗車人数は延べ44,094人で、2月の試験運行開始後、8月まで順調に利用者を増やし、9月は8月より微減し、7,078人の利用であった。
- 2月の試験運行開始から9月末までの1日あたりの平均乗車人数は、195.1人/日、1便あたりの利用者数は17.7人/便となっている。

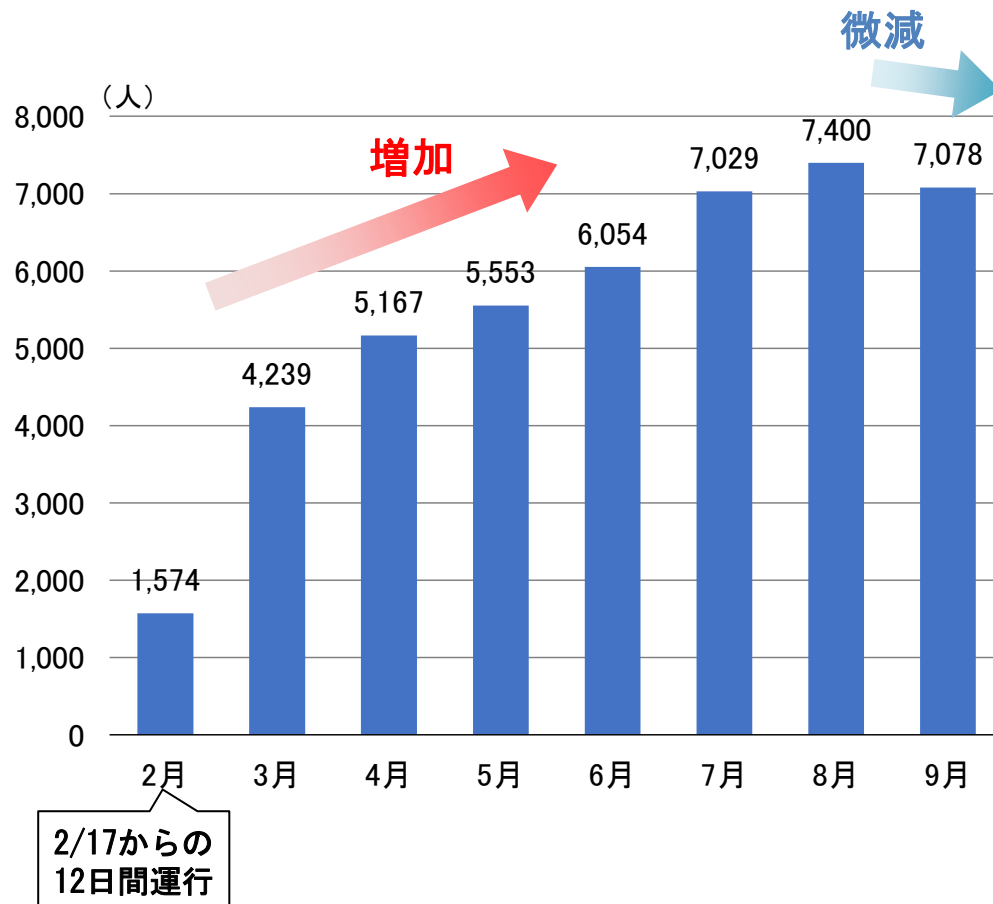


図. 月別乗車人数の推移

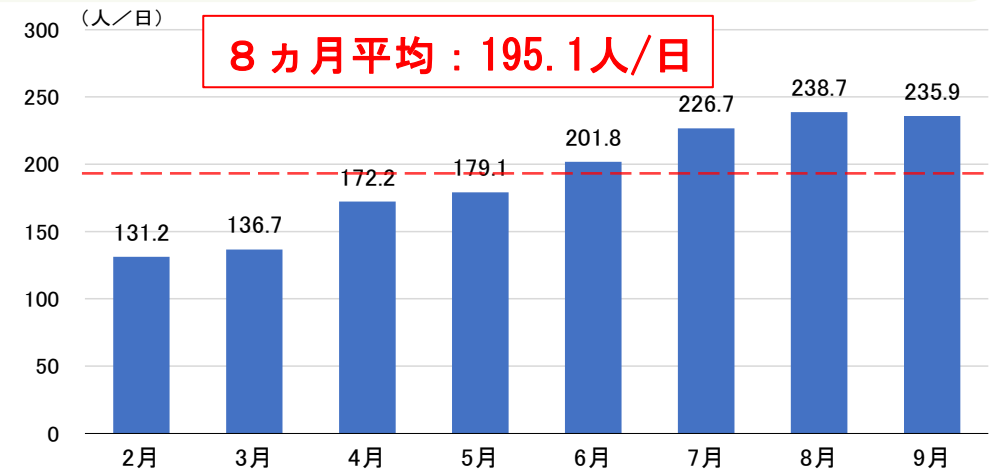


図. 各月の1日あたりの平均乗車人数の推移

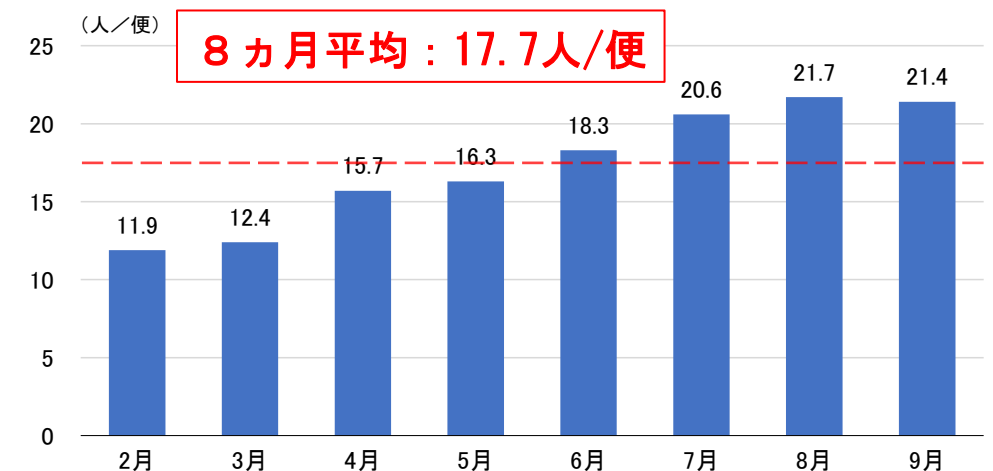


図. 各月の1便あたりの平均乗車人数の推移

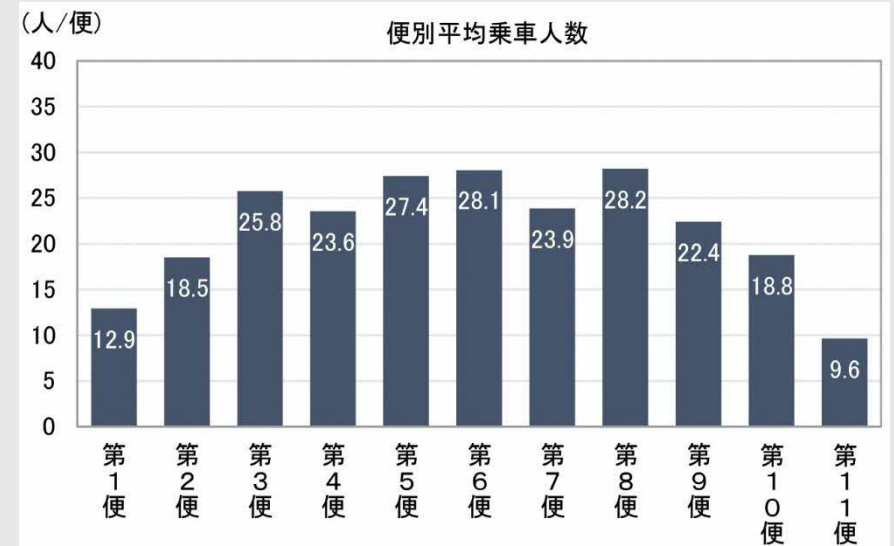
②便別利用状況について



- 便別での乗車人数では、第3便が平均24人と最も多く、第3便以後減少し、最終の第11便が平均10人と少ない利用となっている。
- 乗車のピークの便に違いがありますが、試行運転開始後、第3便の利用が常に多い状況となっている。
- H30年度実証実験時同様、日中の利用がほぼ横ばいに推移し、始発と終発が少ない利用状況となっている。



図. 便別平均乗車人数(運行期間 平均)



参考)便別平均乗車人数(H30年度実証実験運行時)

③曜日別利用状況について

- 試験運行期間の合計では、日曜日が他の曜日に比べ1,000人前後少ないが、それ以外は6,000人超でほぼ同じくらいの利用状況といえる。
- 月別では、8月は月曜日、9月は金曜日が突出して乗車人数が多くなっていますが、1便あたりの平均乗車人数では木曜日が多くなっている。
- 月別の1便あたりの平均乗車人数では、2月は水曜日、3月と4月は土曜日、5月・7月・8月は金曜日が6月は木曜日が最も多くなっている。

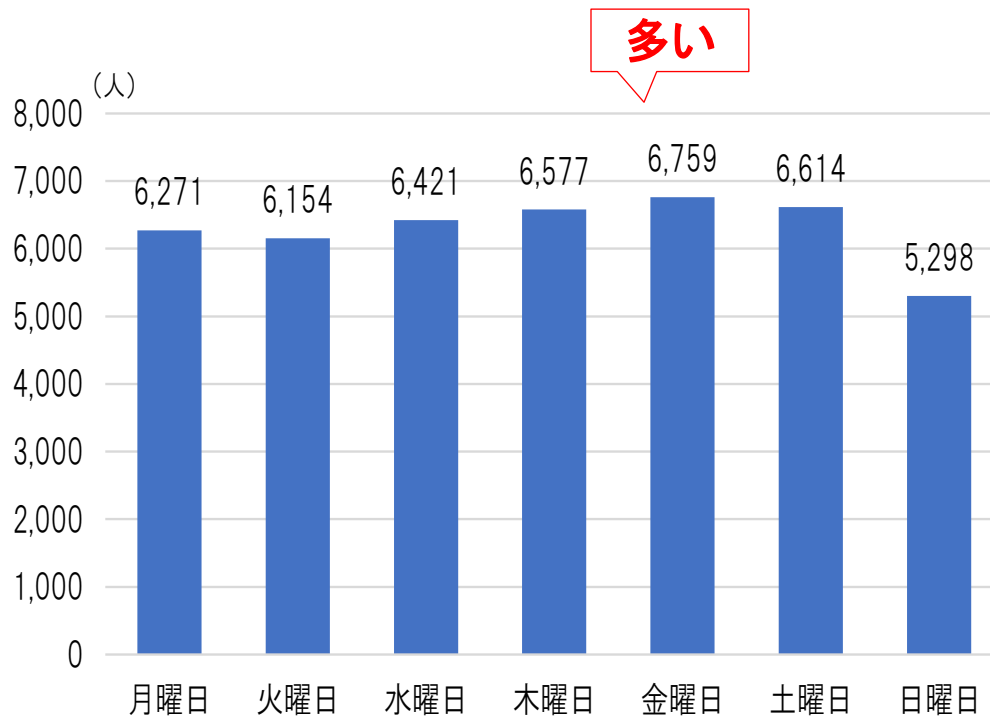


図. 曜日別乗車人数(運行期間 合計)

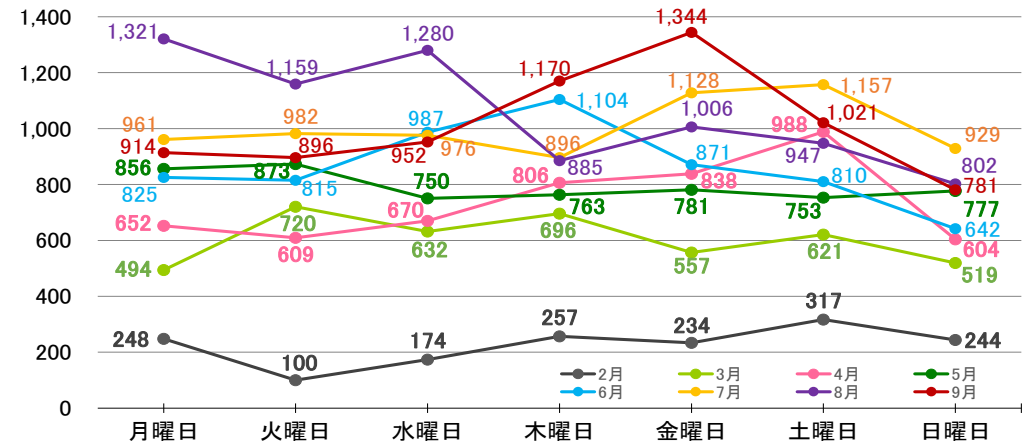


図. 曜日別乗車人数(運行期間 月別平均)

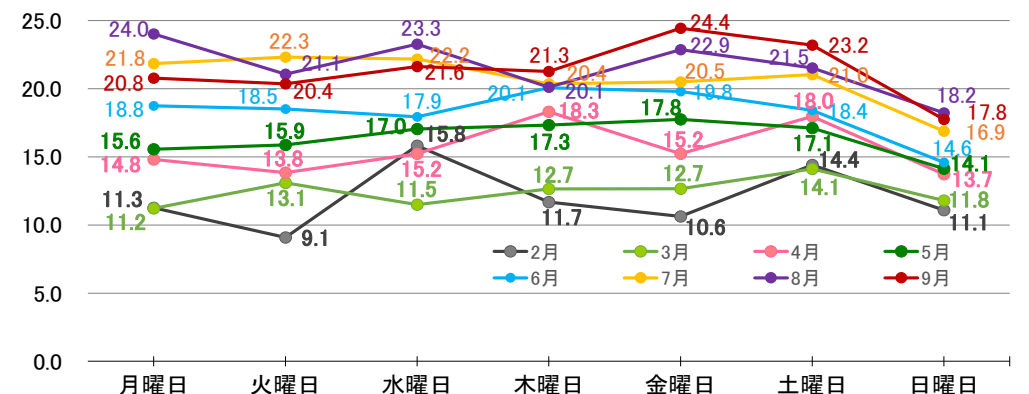


図. 曜日別1便あたりの平均乗車人数(運行期間 月別平均)

④平日休日別利用状況について



- 平日と休日(土日祝)別でみると、平日の第3便の平均乗車人数が24.7人と最も多くなっている。
- 1便あたりの平均乗車人数では、平日18人/便、休日17人/便とほぼ同じ利用状況となっている。
- H30年度の実証実験の便別でみると、終発を除き休日の利用が多くなっているが、試行運転では第1便と第2便は平日の方が圧倒的に多くなっている。

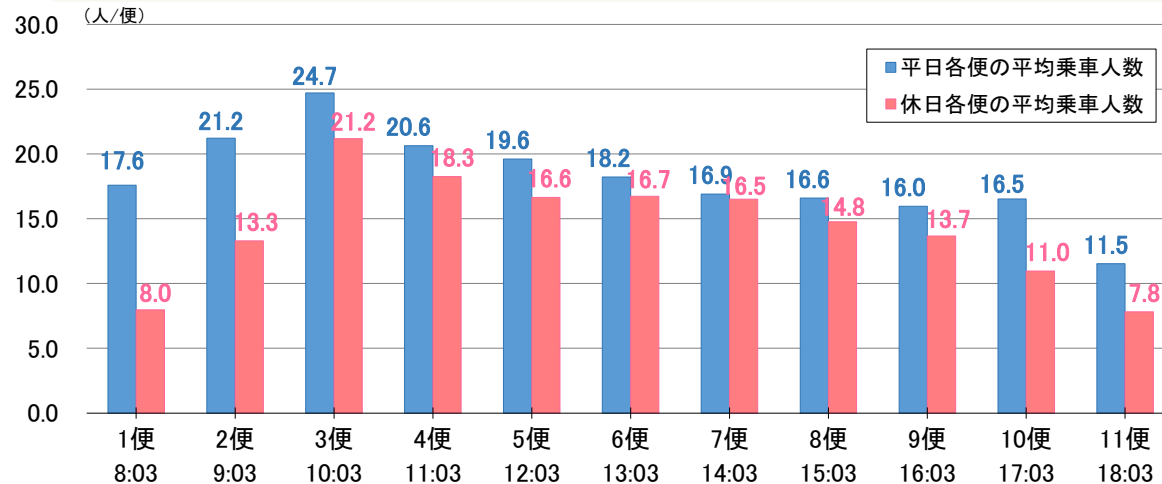


図. 平日休日別便別平均乗車人数(運行期間 平均)

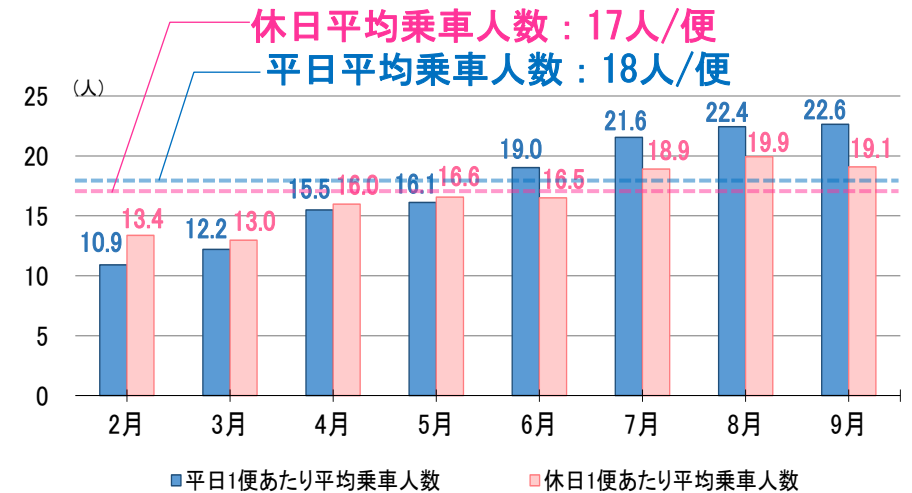
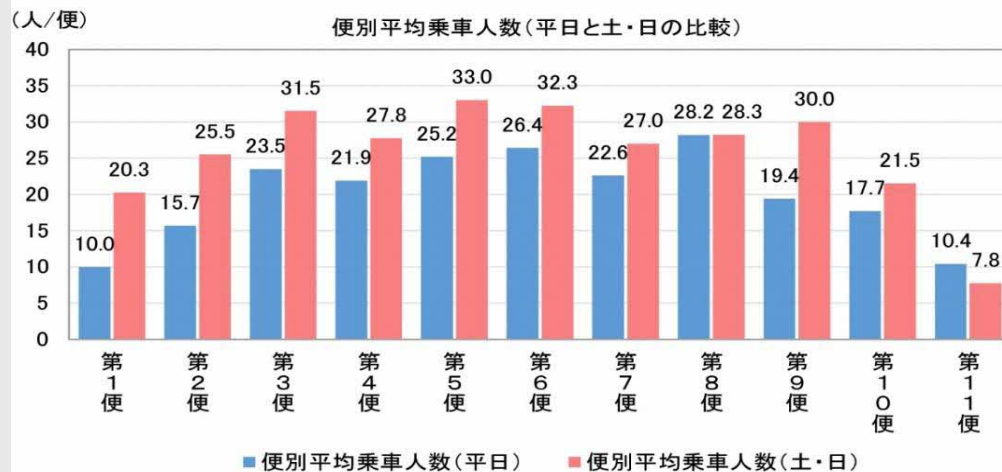


図. 平日休日別1日あたりの平均乗車人数(運行期間 平均)



参考) 平日休日別便別平均乗車人数(H30年度実証実験運行時)

④ 停留所別利用状況について



- 鉄道との乗換えが可能なバス停留所(阪急千里山駅や阪急南千里駅、緑地公園駅東口や緑地公園駅西口)で利用が多く、阪急南千里駅バス停留所の利用が最も多くなっている。
- 停留所により乗降の傾向は様々あるが、「緑地公園東口」は乗車人数に比べ降車人数が特に多い。

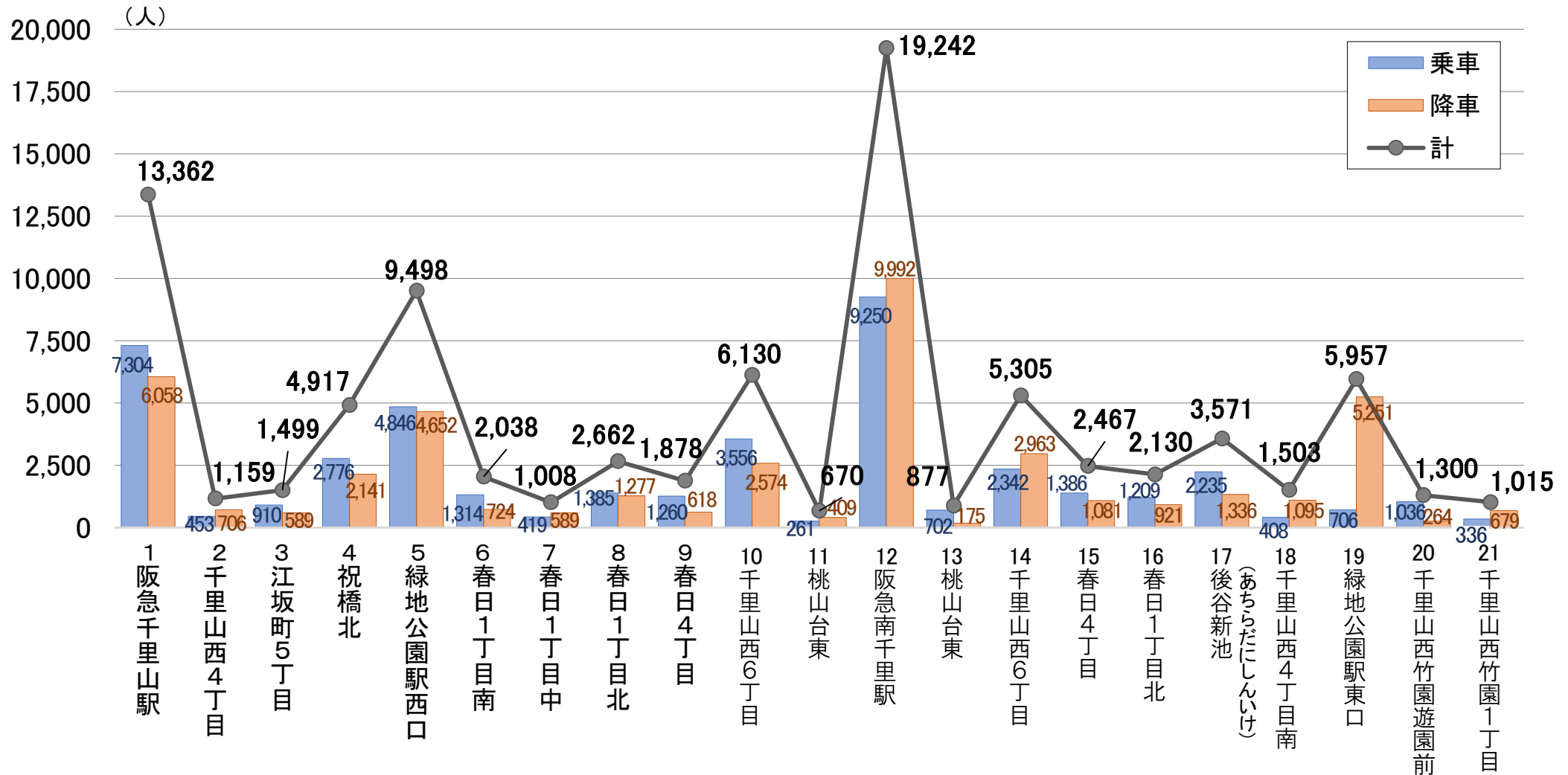


図. 停留所別乗降人数(運行期間 合計)

エリア別乗降人数

※円の大きさは乗降人数の合計値に比例

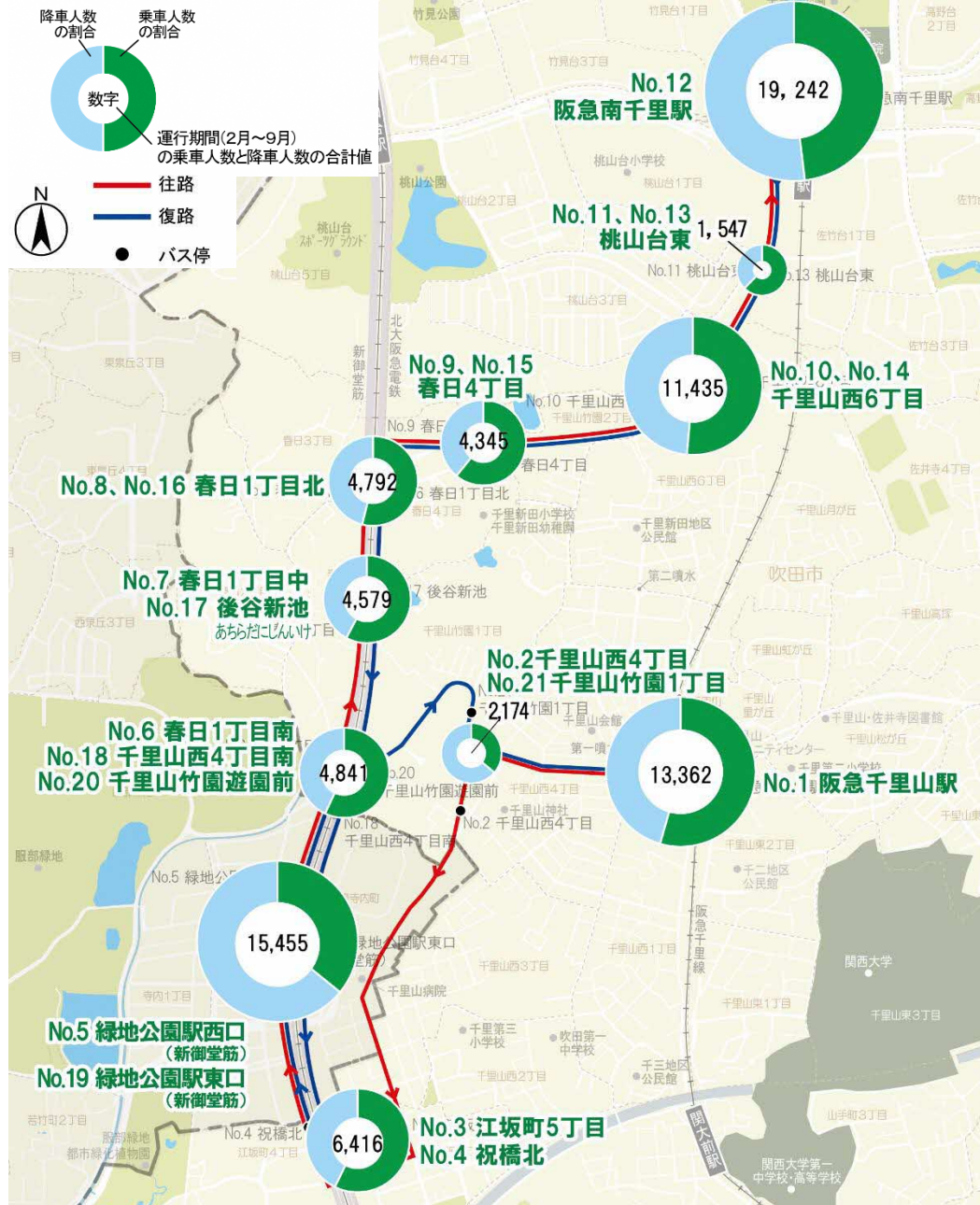


図. 停留所別乗降人数(運行期間 エリア別合計)

※円の大きさは1日あたりの乗降人数の合計値に比例

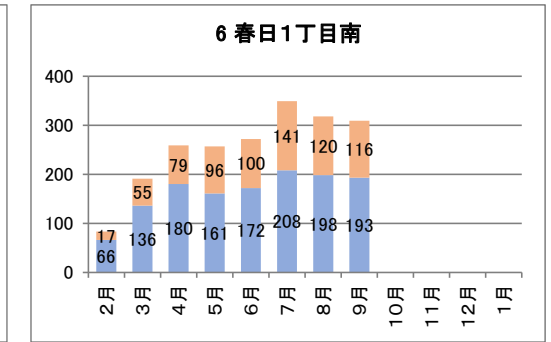
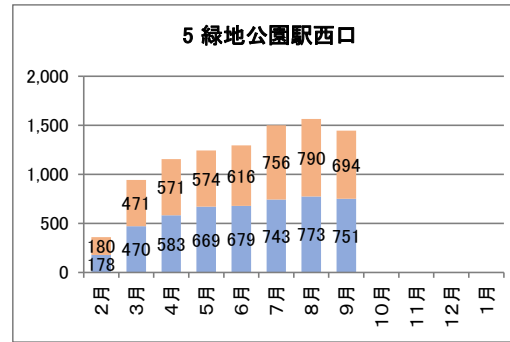
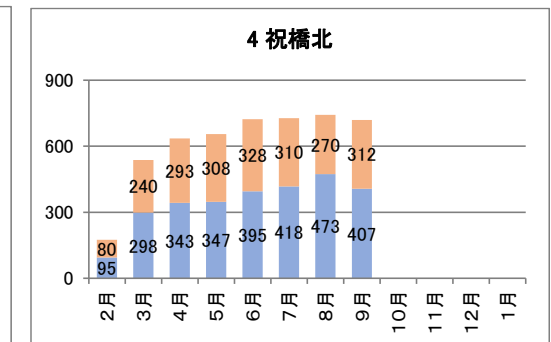
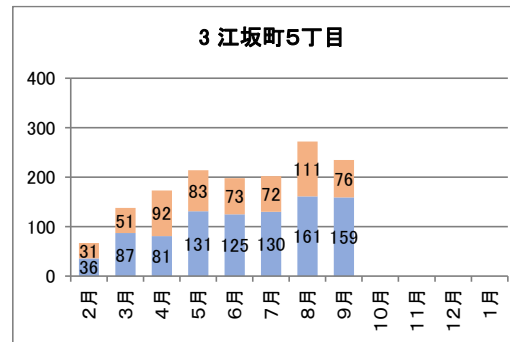
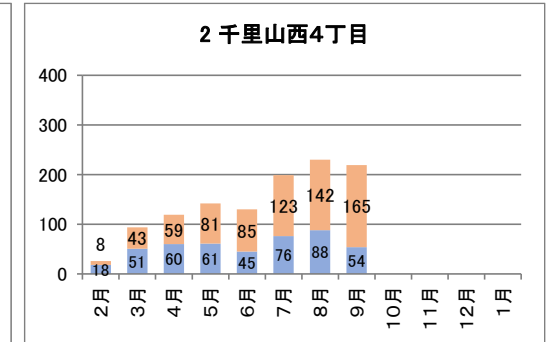
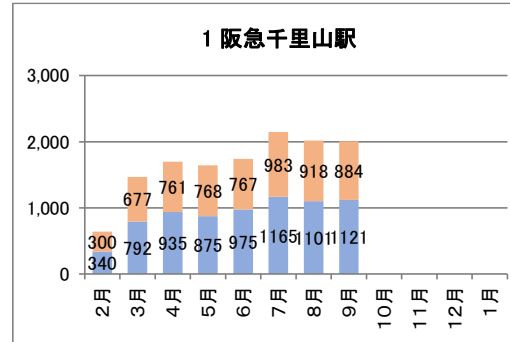


図. 停留所別1日あたりの平均乗降人数(運行期間 エリア別合計)

各バス停留所の月別乗降人数



図. すいすいバス たけのこルート(千里山地域)運行ルート



各バス停留所の月別乗降人数

